

## Fun Time

がん相談支援室 がん看護専門看護師  
和田 尚子



### がんサロン「笑てん会」のご案内 ほっと一息つきに来てみませんか？

がんサロン「笑てん会(わろてんかい)」は、がん患者さんとご家族が、体験を語り合いお互いに癒される場をつくることを目的として発足しました。サロンの名称は参加者の方が考えられ、がんになっても自分らしく笑って生きようという意味が込められています。

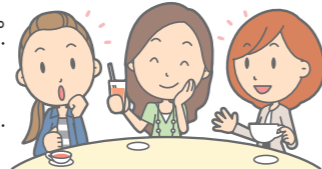
参加者からは、「話を聞いてもらって涙がでた」、「実際に治療をしている人の話が聞いて勇気が出た」「来てよかった。元気になった」という言葉を頂きます。同じ体験をした人たち同士だからこそ、気持ちが分かり合い、「自分1人ではないんだ」と孤独感が和らぐのかもしれない。愚痴でも良いので、ほっと一息つきに来てみませんか？

対象： がんと診断されたことのある方、ご家族など  
当院に受診されていない方もご参加いただけます。

日時： 毎月第3火曜日 14:00~15:30  
(勉強会30分 交流会1時間)

場所： 光(きらり)ホール 申込み不要

お問い合わせ： がん相談支援室 (079-451-5500代表)



#### 今後の予定

| 日時        | 勉強会の内容      |
|-----------|-------------|
| 9月17日(火)  | 生活の中での運動    |
| 10月15日(火) | リンパ浮腫への対応   |
| 11月19日(火) | がん治療と仕事について |

### かかりつけのお医者さんにご相談を

体調に不安があり、治療についてもっと詳しく相談したいなどの場合は、まずはかかりつけの先生にご相談ください。

当院では、かかりつけの先生としっかり医療連携を行い皆さんの健康を支えます。



## Hospital News

### 健康教室のご案内

健康教室を毎月第3土曜日に開催しています。  
各テーマ毎に当院の医師、医療職員が解説しています。

日時： 9月21日(土) 14:00~15:00

場所： 光(きらり)ホール

講師： 救急科主任科部長 切田 学

タイトル： 知っというほしい災害時のトリアージ

### 採用情報 加古川中央市民病院で一緒に働きませんか？

- 看護師 ・ 看護補助 ・ 診療放射線技師
- 臨床工学技士 ・ 医師事務作業補助者
- 予約受付事務 ・ 医療事務業務 ・ 外来、病棟クラーク
- ポーター業務 ・ 外来事務補助 ・ リハビリ業務補助
- 放射線検査業務補助 ・ 視能訓練士 などの募集をしています。

詳しくはホームページをご覧ください。  
(資格・経験不問の職種もあります。)

加古川中央市民病院 採用情報 検索



### 病院ボランティアとして活躍してみませんか

病院に来られた方が安心して、あたたかい気持ちになっていただける癒しの空間を、病院ボランティアさんがつくってくださっています。  
興味のある方は、是非一度お問い合わせください。  
詳しい活躍と申し込みについては、ホームページをご覧ください。  
担当者 / ボランティアコーディネーター

▶ <http://www.kakohp.jp/about/volunteer.html>

#### ボランティア活動の内容

- 外来案内 ○ 図書コーナー
- 四季折々の作品装飾
- 縫製 ○ 絵本の読み聞かせ
- 院内行事のお手伝い



## 特集

# がん治療の“今”そして“これから”

がん集学的治療センター長 (消化器外科/外科) 金田 邦彦



1980年代以降、日本人の死亡原因の第1位は悪性新生物(いわゆる「がん」)で、2人に1人が「がん」にかかるといわれています。その一方、効果的な治療法や新しい薬などが開発され「がん」は不治の病でなくなりつつあります。

がんに対する治療は、大きく外科的治療、薬物(化学)療法、放射線療法の3つに分けることができます。一般的には転移がなく治療すべきターゲットが限られている場合には手術や放射線治療が行われますし、全身に広がっている病変や血液疾患の場合は薬物療法が主体になります。それぞれの治療法単独では効果に限界があるため、最近では2種類あるいは3種類の治療方法を組み合わせて治療効果を高める試みが広くなされています。この方法は集学的治療とよばれ、がん治療における主流となりつつあります。当院では治療の選択に迷う症例では、各科の医師、看護師、薬剤師等が参加して治療方針を決定するカンファレンスを定期的に行っています。また、がんに対する直接の治療とは異なりますが、がんになった患者さんに対して精神的あるいは肉体的な苦痛を取り除くために緩和医療が積極的に行われるようになりました。さらに当院ではがん相談支援室を設置してがん治療を受けるにあたって、患者さんがかかえる疑問や悩みなどに対して側面からサポートする体制をとっています。

このように当院のがん集学的治療センターでは、病院内の多職種にわたるメディカルスタッフチームを作って、がん患者さんに寄り添う治療を実践しております。



## がんの集学的治療を担う 5つの治療部門

### 手術療法室



がん集学的治療センター 手術療法室長  
(外科/消化器外科) 田中 智浩



手術療法では、がん細胞を取り残さないように、通常がん組織の周りの正常組織を含めて切除します。5大がん(胃がん、大腸がん、乳がん、肝がん、肺がん)や泌尿器がんなど、各診療科の専門医師が手術を行います。

近年、胸腔鏡や腹腔鏡を用いた低侵襲手術の割合が増えており、当院でも3D内視鏡を用いた精密で出血の少ない安全な手術が可能となっています。ロボット支援手術についても、すでに泌尿器科では前立腺がんを導入済みであり、消化器外科においても直腸がんに対し今年度導入予定です。ロボット手術では機器の自由度が高く、人間には不可能な角度でのアプローチが可能であり、人間の操作による手ぶれがなく、縫合操作が容易になるなどの利点があり、さらなる治療成績の向上が期待できます。

### 薬物療法室



がん集学的治療センター 副センター長  
(腫瘍・血液内科) 岡村 篤夫



がん患者さんの増加に伴い、がん薬物療法の件数も増加しています。2018年度当院の通院治療室で実施された外来がん薬物療法のべ件数(ホルモン療法・支持療法を含む)は8,000件を超えており、兵庫県下では大学病院に次ぐ診療実績となっています。

近年のがん薬物療法は、全身の細胞に影響を与える殺細胞薬(いわゆる抗がん剤)を用いた従来の化学療法から分子標的療法や免疫療法へと、その流れが大きく変わりつつあります。分子標的療法で用いられる分子標的薬は、がん細胞に特有の分子を狙い撃ちすることで、主にがん細胞に作用します。一方、免疫療法で用いられるオプジーボ®などの免疫チェックポイント阻害薬は、がん細胞に直接作用するのではなく、がん細胞を攻撃する免疫細胞の働きを高めることで、間接的に抗がん作用を発揮する薬剤です。現在、通院治療室で実施された外来がん薬物療法の約6割が、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬を使用したものです。がんの発症や治療効果に関係する遺伝子検査も普及しつつあり、今後益々、それら薬剤の使用頻度が高まるものと予想されます。

### 放射線療法室



がん集学的治療センター 放射線療法室長  
(放射線診断・IVR科、放射線治療科) 土師 守



がん治療において、放射線治療は手術・化学療法とともに最も重要な柱の一つを担っています。近年の放射線治療の進歩はめざましく、画像誘導放射線治療(IGRT)、定位放射線治療(SRS/SRT)、肺がんなどに対する呼吸同期照射や前立腺がん等に対する強度変調放射線治療(IMRT)等が行われており、治療成績の向上及び副作用の低減に繋がっています。当院も新病院開院と同時に最新型放射線治療装置を導入しましたが、それに加えて動体追跡システムも導入したため、動きのある病変部に対してもさらに高度な放射線治療が可能になりました。本年9月には、がん診療に必要な不可欠なPET-CT装置が更新され、診断能が格段に向上した半導体検出器搭載の装置が、関西では初めて稼働する予定で、当院でのがん治療の質の向上が期待されています。

### 緩和ケア室



がん集学的治療センター 緩和ケア室長  
(消化器内科) 西澤 昭彦



緩和ケアとは、がんやその他の難治性疾患に悩む患者さんの体と心の苦痛を和らげるためのケアのことで、診断された瞬間から必要とされます。患者の皆さんが、自分らしく生活できることを目指しており、医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・社会福祉士などが協力して、病棟でのチーム回診や緩和ケア外来を通じて、それぞれにあった最適のケアを提供できるよう努力しています。最近はがん以外にも、心不全や神経難病など難治性疾患の患者さんのケアについてご協力することも増えています。超高齢化社会で難治性疾患に悩む人々が増える時代において、緩和ケアの担う役割は益々重要視されており、その期待に応えるべく力を発揮したいと考えています。

### がん相談支援室



がん相談支援室 がん看護専門看護師  
和田 尚子



がんと診断されると多くの患者さんやご家族が大きな衝撃を受け、気持ちが動揺し、つらさを感じます。がん相談支援室では、不安や悩みについてお話を伺いながら一緒に状況を整理し、その人らしい病気の向き合い方や生活を考えるサポートをしています。ご相談内容はどんなことでも構いません。治療についての一般的な情報が知りたい、不安が強いというようなご相談から、最近ではお仕事のご相談や脱毛・ウィッグなどの生活に関するご相談も増えています。当院にかけつけなくても誰でも無料でご利用頂け、秘密厳守でご相談に応じますので、お気軽にご相談ください。

- 対面相談 受付: 1階患者相談窓口  
※ 予約なしでの対応も可能ですが、事前にお電話で予約を取って頂くとお待たせせずに対応できます。
- 電話相談 079-451-5500(代表)

### かかりつけ医と患者さんを繋ぐ「連携パス」

患者支援センター入院支援室 師長 北野 由起恵

当院は、「がん地域連携クリティカルパス(以下連携パス)」を活用し、患者さん中心の地域チーム医療を推進しています。「連携パス」とは、再発や合併症の早期発見、全身管理を目標として、地域のかかりつけ医と当院の医師が協働して診療や情報交換を行うシステムです。待ち時間や通院時間の短縮、治療計画の把握、かかりつけ医の手厚い診療による不安解消といった利点があります。患者支援センターは、かかりつけ医と患者さんの連携をサポートしています。



### 血液がん患者会「繋ぎの会」

がん集学的治療センター 副センター長  
(腫瘍・血液内科) 岡村 篤夫

血液がん患者会「繋ぎの会」は、血液がんの患者さん・ご家族同士が交流し情報交換が行えるコミュニティサロンです。平成27年4月より月に1回程度、当院のきらりホールで開催しており、おかげさまで開設より無事4年が経過いたしました。病気や治療の相談だけでなく、医療費のことや社会復帰、ご家族の支援にも繋がるような情報提供や講演活動にも取り組んでいます。また、続けて患者会に参加されるメンバーの中から4名の方が、兵庫県がんピアサポーター養成研修を修了されました。現在治療中の患者さんの声にも、積極的に耳を傾け支えていければと考えています。今後は、他の患者会との交流も行っていく予定です。当院で治療を受けられた患者さんのみならず、他院で治療を受けられた患者さん・ご家族の方々も、是非お気軽にご参加ください。